

平成26年度 事業報告

《 概要 》

政府は、長引くデフレからの早期脱却と経済再生を図るため、「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」の「三本の矢」を一体として強力に推進してきました。その効果もあって、実質GDPが第4四半期連続でプラス成長となり、有効求人倍率が約6年ぶりに1倍を回復するなど、日本経済は力強さを取り戻しつつあります。また、物価動向については、もはやデフレ状況ではなく、デフレ脱却に向けて着実に前進しています。

26年度に入り、こうした動きがさらに広がり、企業収益の拡大が速やかに賃金上昇や雇用拡大につながり、消費の拡大や投資の増加を通じて、更なる企業収益の拡大に結び付くという経済の好循環が実現されつつあります。

一方、シルバー人材センターを取り巻く環境は、会員関係では、65歳までの雇用の義務化や年金支給年齢の引き上げ等の影響が依然として大きいながらも、就業開拓委員による街頭ビラ配布、鹿児島県シルバー人材センター連合会（以下 鹿シ連という。）との入会促進活動の連携、団塊世代の65歳到達等もあり若干回復し、平成26年度末の会員数は930名となり、前年度を15名上回りました。

受託事業については依然として厳しく、法令に基づいた適正な事業運営の実施のために、不適切な請負業務の見直しを行い、契約の解除や労働者派遣事業への切り替えを行いました。このようなことから、受託事業は減少し、労働者派遣事業は増加する結果となりました。

前年度対比で受託件数は4件減少し、契約額については、公共事業は1,827,776円増加したものの、民間事業については、浜之市ふれあいセンターの市直営化、市議市長選挙等のポスター掲示業務など特殊事情等もあり14,621,172円減少し、総額で367,811,341円にとどまり、12,793,396円減少しました。

派遣事業においては、前年度実績を3,468,873円上回りました。

安全就業対策については、安全・適正就業委員会による安全就業強化策を打ち出したにもかかわらず、傷害事故・賠償責任・車輛事故あわせて18件となり、前年度より4件増加しました。

このような状況の中、第2次中期計画の最終年度として計画に基づき、展望の見えるセンターをめざし、下記のとおり事業を進めて参りました。

詳細については以下のとおりです。

1. 会員組織関係

- (1) 年齢、体力に関係なく働き続けることができるセンターを目指し、完全請負制に向けての準備作業に取り組みました。
- (2) 一般会員から繁雑な事務作業を取り除くために、見積専門員制度を導入し会員主導の組織体制への足がかりを作りました。
- (3) 就業開拓委員会を中心に、ショッピングセンターでのパンフレット配布など、団塊の世代の入会を促進し、組織の活性化を図りました。
- (4) 女性の会組織を強化し、福祉・家事援助・子育て支援に的確に対応できる体制を目指して、女性をつどいを開催しました。
- (5) 会員相互の連帯意識を高めるために、ボランティア活動の開催や霧島国分夏祭り、初午祭へ参加しました。
- (6) 1・1運動（会員1人が1人の入会促進運動を行う）を展開し、会員の増強に努めました。

2. 事務局関係

- (1) 見積専門員制度の導入がスムーズに行われるように、事務局体制を再構築し、見積専門員業務フローチャートを作成し研修を行いました。
- (2) 見積基準策定検討委員会において、適正な請負事業が出来るよう剪定業務の見積積算表を策定しました。
- (3) エコファーム事業で製造した、土壌改良材「グリーンアミノ」並びに給食配布事業の顧客獲得のため、チラシの配布を行いました。
- (4) 霧島よかところ案内人養成事業において、浜之市小浜コース並びに国分コースの観光ガイド養成研修テキストを作成し、新たな観光コースの創造とガイドの養成を行いました。一方、鹿児島神宮周辺コースへの誘客を行うため、ホームページ等を活用し県内外への周知を図りました。

3. 発注者関係

- (1) 発注者に対し、シルバー人材センターの事業内容を普及啓発していくため鹿シ連と提携し、新聞折り込みチラシで霧島市全戸に配布しました。
- (2) 8月に普及啓発の一環として広報誌を発行し、会員・市民へ向けて情報の提供を行いました。

4. 就業開拓関係

- (1) 就業開拓委員会を中心に、職員と一体となって、営業活動を強化しました。特に見積専門員においては見積時に、近隣世帯にもチラシを配布

- しPRを行いました。
- (2) 県が進める地域人づくり事業で就業確保推進員1名を鹿シ連より派遣していただき、就業開拓委員と一体となって、事業所への就業開拓を進め、派遣事業での就業先の確保に努めました。
 - (3) 事業量を確保するため、行政機関・民間企業等への積極的な営業活動を行い、また、指定管理施設の公募に対しても積極的に手を挙げました。結果として、霧島市城山公園を管理者として決定いただきました。

5. 安全・適正就業関係

- (1) 毎月第4木曜日を安全の日と定め、安全適正就業委員会を中心に、作業現場への安全パトロールを行い、指導の徹底を図りました。
- (2) 6月を安全就業強化月間として定め、ワッペンを着けての就業を行うなど安全に対する意識の高揚を図りました。
- (3) 鹿シ連より安全優良センターとして表彰を受けました。
- (4) 会員の安全に対する意識を高めるため、安全だよりを発行しました。